



第3回助産実践能力向上研修



平成31年1月12日（土曜日）、山口県看護研修会館において、第3回助産実践能力向上研修会が開催されました。山口赤十字病院 看護師長 中山幸先生



を講師にお招きし、「災害時における助産体制の整備」について講義をして頂きました。学習目標は、①災害に対する日頃の備えと災害時の対応を考える、②災害時の妊産婦や母子、女性の特徴と助産師の役割を考える、③災害時のケアの実際を考える、でした。

先生は実際に東日本大震災の医療救護活動を現地でされており、講義内容から地震発生からの緊張した当時の様子が伝わりました。当時の救護活動で、妊婦健診が他院、母子手帳はボロボロで妊娠中の状況がわからない産婦の分娩介助の体験から、日頃からアセスメント能力を高める必要があると言われました。妊産婦、子供への助産師の視点からの細かい配慮、支援が良く分かりました。午後は産科病棟からの火災発生を想定し、避難の机上シミュレーションを行ないました。



アンケート結果には「自施設の災害対策を考え直すきっかけになった、普段からの環境整備や物品や備蓄の数などに気を付けたり、災害が起きると想定して



考えることができそう。」という意見がありました。最後に先生から、日頃からのシミュレーションが大切である、南海トラフ地震は来る、県民の幸せのために頑張りましょう、と励ましの言葉を頂きました。大変刺激になりました。



山口県看護協会
助産師職能委員会